

能勢分校6期生
卒業おめでとうございます！



能勢分校
ホームページ



Facebook

地域魅力化クラブ
Instagramは
分校HPからご覧
いただけます。



令和8年2月27日(金)、能勢分校にて6期生20名の卒業式が執り行われました。梅の花がほころび始めた校庭には春の香りが漂い、卒業生たちは穏やかな雰囲気の中、新たな門出の日を迎えました。

6期生が入学した2023年は、新型コロナウイルスがインフルエンザと同様の扱いへと移行した節目の年でした。制限の多かった学校生活から通常の活動へと戻る中、不安や戸惑いを抱えながらも、仲間とともに日々を積み重ね、確かな成長を遂げてきました。准校長の式辞では、スティーブ・ジョブズ氏の「未来を予測して点をつなげることはできないが、過去を振り返り点をつなげることはできる」という言葉が紹介され、日々の積み重ねを大切にすることの意義が卒業生に伝えられました。さらに、「人生の物語の主人公は自分自身であり、自分が思う幸せは自分で掴むもの」と、主体的に生きることの大切さを力強く語られました。

卒業生2名による「卒業のことば」では、それぞれが高校生活を振り返りながら、在校生へ向けて「大変なこともあると思いますが、好きだと思えることを見つけてください。好きなことがあると高校生活はもっと楽しくなります」と温かい励ましの言葉を述べました。実体験に基づく先輩の言葉は、在校生にとって心に残る大切な贈り物となりました。式のクライマックスは、卒業生全員によるRADWIMPSの「正解」の合唱でした。歌声が体育館に響き渡ると、3年間の思い出があふれ、涙をこらえきれない生徒の姿も見られました。文化祭でも心をひとつにした素晴らしい合唱を披露しましたが、この日はさらに気持ちが重なり合い、より深みのある歌声が広がりました。式場全体が温かな感動に包まれ、卒業生の歩んできた時間が鮮やかによみがえりました。

卒業生はこれから、それぞれの未来へ歩み出していきます。自分らしさを大切にしながら、新しい道を確認かな一歩で進んでいってください。

国際社会で活躍する力を育む

フィリピン姉妹校との新たな協定締結



大阪府では、すべての府立学校が海外の学校と姉妹校提携を締結し、相互の学校訪問等による異なる文化・生活習慣を持つ若者と交流することで、豊かな国際感覚や多様性を受け入れる価値観の醸成などを目的とした、「海外姉妹校交流事業」を今年度から開始しました。

本校におきましては、2年前から海外スタディツアーで交流がある、フィリピンの教育機関（University of Abra, Abra State Institute of Science and TechnologyおよびLaboratory High School）と姉妹校協定を締結しました。

今後は現地訪問をはじめ、様々な形で生徒同士がつながる機会を創出し、国際社会で求められるコミュニケーション能力や協働する力の育成に取り組んでまいります。国を越えた交流により、多様な文化を学び合い、尊重し合う貴重な機会となり、生徒たちにとって、ともに未来を切り拓く力が育まれることに期待をしております。



地域とつながる実践型学習

「課題探究GSⅡ」

最終発表会を開催しました！

3年生が2年次後期より、1年半をかけて取り組んできた課題探究学習。各グループがテーマを絞り、地域課題についての解決策を模索してきました。実証実験や研究授業、学外調査やイベントの企画・運営・参加、高校生目線での情報発信や役場への提案など、時間をかけ深めた探究活動の集大成を、12月24日（水）に浄るりシアター大ホールにて発表しました。

発表内容の概要は以下のとおりです。

丁寧にまとめられた分かりやすいスライド資料と堂々としたプレゼン内容に、1・2年生は大いに刺激を受け、一般参加者の皆さんからは「生徒たちが意識を持って取り組んでいることが伝わり素晴らしい。もっとたくさんの来場者に聞いてもらいたい。」とお褒めの言葉をいただきました。

大阪公立大学 伊井先生の総括では、積極的に外部の大人と連携を取っている高校生の姿に「大学生に引けを取らない素晴らしい発表。次は大人が本気になる番ですね。」と激励をいただきました。

ご協力いただいた関係各所の皆さま、誠にありがとうございました！これからも能勢分校をよろしく願います。



大阪府立豊中高等学校能勢分校

課題探究GS最終発表会

分校6期生が1年半かけて挑んだ地域の課題解決について、私たちの答えを発表します。ぜひお越しください。

生徒作成ポスター

食農流通コース



チキントラクターの試作品を制作し学校農場で試運用。鶏には菊炭入り飼料を与え、卵の卵質調査を行った。普段学んでいる畜産を生かした地域の活性化を目標とした。

チキントラ大作戦！

チキントラクター（移動式の鶏小屋）を用いた耕作放棄地の活用と能勢の特産品の菊炭のくず炭を使用した菊炭飼料の開発に取り組んだ。

食農流通コース

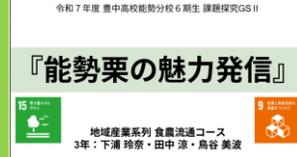


拓哉さんに協力していただき、鶏肉と能勢の特産品（黒米）をブレンドさせたソーセージを作った。文化祭でホットドッグとして販売し、完売することができた。将来的にはソーセージだけで販売をしたい。

能勢分校農場から魅力発信 ～特産品開発で地域活性化～

鶏を捌く授業から鶏肉が余っていることを知り、鶏肉を使ってソーセージを作っている「横山ハム工房」の横山拓哉さんに協力していただき、鶏肉と能勢の特産品（黒米）をブレンドさせたソーセージを作った。文化祭でホットドッグとして販売し、完売することができた。将来的にはソーセージだけで販売をしたい。

食農流通コース



が増え、より関心を持つ人や関わる人を増やせるのではないかと考えた。農場で栽培している「銀寄」栗の様子や生産者の方に取材したことをInstagramに投稿した。

能勢栗の魅力発信

SNSなどを使い、能勢栗の現状や魅力を伝えた。すでに能勢では様々な栗についての情報発信があるが、私たちも発信することで、栗に関する情報が増え、より関心を持つ人や関わる人を増やせるのではないかと考えた。農場で栽培している「銀寄」栗の様子や生産者の方に取材したことをInstagramに投稿した。

里山起業コース



がっていく。そこで能勢の子ども達に、もっと能勢を知ってもらうことを目的とし、子ども達が楽しく遊べながら能勢を学べるように「能勢かるた」を企画、作成し、地域の方々、小学生たちと実演した。

のせのたねプロジェクト ～のせを知ってもらうために～

子ども達の能勢についての知識、地元愛の不足は、地元への関心の低下、地域交流の減少、人口流出の問題にもつながっていく。

対人支援コース

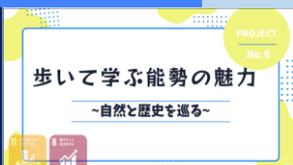


先輩たちの活動を踏まえているが、前年と同じ内容にならないように、今年独自の企画力で地域の魅力を発信できるよう考え、取り組み、来場者が楽しめるよう工夫をした。

大阪のてっぺん元気にしよう計画 ～人の流れを能勢に～

「能勢町内外問わず魅力を伝える」を目標に、能勢町の芸術文化祭に参加し、企画の提案や運営を行った。

探究コース

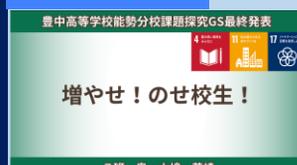


ただ、能勢町役場が運営している町営バスが観光目的での利用ができない状態であるので、利用できるように役場に向けてアプローチした。

歩いて学ぶ能勢の魅力

能勢町の観光の活性化と年々減便を繰り返している能勢町の公共交通機関の利用者増加を目ざし、能勢町の魅力を伝える観光マップとバスの乗り降りだけで楽しめる観光ルートを考案した。

探究コース



この発表を読んだあなたも、私たちの大好きな能勢分校を知ってください！広めてください！！

増やせ！のせ校生！

能勢分校の入学者数を増やしたい！そして学校に通いづらい中学生にも能勢分校の魅力を知ってほしい！という想いで活動した。施設への聞きとり、ポスターやサイトの作成、分校説明会では私たちの活動を発信した。

「課題探究GS I」

始めました！！

「課題探究GS」は、能勢分校独自の授業の一つです。知識の習得のみにとどまらず、生徒自身が社会の課題を見つけ出し、その解決に主体的に取り組む実践型の探究授業です。

2年生の課題探究授業が始まっています。12月に先輩の最終発表会に参加し、課題に対する具体的な取り組み方やスライド資料の見せ方、伝わりやすい発表方法など多くを学び、1年次に聴講した頃とは違った次年度のGS IIへ向けた感想が多くみられました。

1月26日（月）に「解決策を一緒に考えよう」をテーマに、体育館にてポスター発表形式でテーマ発表会を行いました。発表者が交代しながら発表し、参加者は発表内容を聞きコメントカードに解決策を記入します。2年生ほぼ全員がグループ発表を行い、各グループの解決策を共に考えました。来年度の課題探究GS IIも地域の皆様のご協力を仰ぐことになると思います。皆さまご協力よろしくお願いいたします。

また1年生は、産業社会と人間の授業で「お仕事図鑑」と題して、地域で様々なお仕事をされている方々に生徒たち自らが訪問日程調整のアポイントメントを取り、インタビュー調査を行い、その内容をまとめた図鑑を作成しました。2月10日（火）には完成発表会も開催しました。ご協力いただいた関係各所の皆さまありがとうございました！



GS I テーマ発表会



お仕事図鑑発表会

能登高校×被災地ボランティア

11月1日（土）～3日（祝）の連休に、1年生2名が石川県立能登高校へ短期越境を行いました。短期越境とは、小規模校同士の交流と令和6年（2024年）に能登で起きた地震や豪雨災害の復興ボランティアを目的とした取り組みです。

1日目の早朝に大阪を出発、お昼過ぎには能登高校へ到着。高校で行われている鳳雛ゼミに参加し「農業×復興」というテーマで、能登高校生徒とディスカッションをしました。2日目は朝から能登高生と一緒に被災した家屋の清掃作業を行いました。部屋中カビだらけだった家屋を一日かけて掃除し、綺麗にしました。最終日は能登のコーディネーターの方のご協力により、被害が大きかった地域の視察と、語り部さんから地震が起きたときの話を聞かせていただくことができました。

3日間という短い時間でしたが、生徒にとって大変貴重な体験となりました。



能登高校生と



掃除ボランティア



語り部さんのお話

農場だより



令和7年度の農業クラブ全国大会西関東大会意見発表会において「優秀賞」を受賞した3年生大坪樹季さんが、大阪府の代表生徒の受賞は栄誉なこと、大阪府教育委員会から招待を受け、11月に大阪府庁を表敬訪問しました。教育長や教育委員会の方々の前で、オーストラリア研修などで経験したことを踏まえ、動物に対する愛情と家畜を地域活性に活用するという受賞内容の発表を行い、教育長からはお祝いの言葉と記念撮影もしていただきました。



大阪府庁表敬訪問

●大丸梅田店販売実習●

11月8日（土）9日（日）に大丸梅田店にて生産物の販売実習を行いました。生徒たちは、農場での実習の様子や生産物の食べ方など、お客様と会話しながら接客を行いました。大丸さんによる事前研修の成果もあり、しっかりとした接客ができていました。



●全国学生養蜂サミット●



11月22日（土）23日（日）につくば国際会議場にて開催された、養蜂活動を学ぶ学生の活動報告会「全国学生養蜂サミット2025」に生徒2名が参加しました。『能勢とレンゲとミツバチと』を研究テーマに、大会場で堂々とした発表をし、展示部門では分校生と茨木工科高校とのコラボ制作物で優秀賞をいただきました！

中高連携事業 & SDGsフェスタ 2025

能勢町では「小中高一貫教育」を柱に、「能勢の宝である子どもたちを、学校・家庭・地域・行政が一体となって育てよう」という思いのもと、地域ぐるみの連携・一貫教育を進めています。



11月14日（金）に能勢ささゆり学園を会場とした「能勢地域学校連携・一貫教育 SDGs フェスタ」が開催されました。

能勢ささゆり学園の5年生から8年生、豊中高校能勢分校、大阪経済大学、(株)教育と探求社、(株)能勢・豊能まちづくりが参加し、SDGsの目標に関連した多彩なブースが並びました。能勢ささゆり学園、および豊中高校能勢分校の全校生が、それぞれのブースを実際に見て触れて体験し、対話を通して学ぶ一日となりました。



根深ねぎの収穫

11月7日（金）にはささゆり学園の7年生が農場見学を訪れました。

また、今年度は数回に渡り、能勢ささゆり学園の給食食材に能勢分校のタマネギ・ダイコン・黒米・根深ネギなどの生産物を提供しました。

冬季の収穫は根深ネギです。氷が張るほどの冷たい湧水を使って、4、6kgの根深ネギを洗浄し、不要な部分を切り取るなどの作業を丁寧に行いました。生徒たちは、小中学生のみんなが喜んでくれたら、との想いで寒い中の作業をがんばりました。

2年生が修学旅行へ行きました

10月28日（火）～30日（木）、2年生が沖縄県へ修学旅行に行きました。出発日は伊丹空港に早朝6時50分の集合でしたが、遅れる生徒は一人もおらず、時間通りに元気いっぱい2泊3日の旅に飛び立ちました。

一日目の目的地はジャングリア。沖縄の新テーマパークです。どんよりした空模様でしたがアトラクションや亜熱帯の森に気分は上り調子です。全室オーシャンビューという素晴らしい立地の宿泊ホテルに生徒たちからは歓声があがっていました。二日目はマリン体験と古宇利島観光です。美しくきらめくエメラルドグリーンの海に言葉もありません。夕方の自由時間はみんな思い思いに過ごしました。あっという間に最終日です。ホテルから徒歩で美ら海水族館へ。ジンベイザメやマンタ、サメなどの迫力ある姿を楽しみました。修学旅行最後はアメリカンビレッジに立ち寄り、昼食を食べたりお土産を買ったり、海辺のカフェでまったりしたり…各々が楽しく過ごしました。

楽しい時間はあっという間！たくさんの思い出とお土産を持って、みんな元気に大阪へ帰りました。



留学生ホストファミリー&サポートメンバー募集

本校では、毎年長期・短期留学生の受入れを行っています。ホストファミリーまたはホストファミリーのサポートをしてくれる方を募集しています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

連絡先：豊中高校能勢分校

国際交流担当：田中 or 磯田

☎ 072-737-0666

toyonaka-noseb-hs@gedu.pref-osaka.ed.jp